



## 視覚効果

ブロック要素の内容は、ボックスの内容領域の範囲内に限定される。以下の場合、ボックスから一部または全部がはみ出す事がある。

- 行が改行されず行ボックスがブロックより、大きくなる場合。
- ブロックが包含ブロックより大きすぎる場合。
- 要素の高さが、包含ブロックの高さを超える場合。
- ボックスが絶対配置されている場合。
- マージンでマイナス指定されている場合。

## 切り抜き方法 (overflow)

内容がはみ出す場合に、はみ出す部分をどのように表示するかを指定するプロパティ。ブロック要素もしくは、置換要素のみに適用。

**visible** (内容を切り抜かない。内容はボックスの外側にも表示される。デフォルト。)

**hidden** (内容を切り抜く。内容はボックスの内側しか表示されない。はみ出した部分を見ることが出来なくなる。)

**scroll** (内容を切り抜く。スクロールバーではみ出した部分を表示する事ができる。)

**auto** (ブラウザ依存。スクロールされる。)

x軸とy軸を個別指定する「**overflow-x**」「**overflow-y**」がIEのみサポートされている。今後全てのブラウザで採用される。

## 切り抜き領域 (clip)

表示済み要素の内容のうち、可視範囲を切り抜き領域といい、任意の切り抜き領域を指定するプロパティ。

`rect(<top>, <right>, <bottom>, <left>)` (切り抜き領域をボックスの四辺からの距離で指定する。マイナス指定可能。auto <0と同等> で指定可。)

`auto` (切り抜き領域は、ボックスと同じ大きさと位置。デフォルト。)

`position: absolute;` の指定は必須。数値指定は、ボックス左上から指定する。

例) `top`・`left`は、実数値で。`right`は、`left`からの距離数値。`bottom`は、`top`からの距離数値

## 可視・不可視 (visibility)

生成するボックスの可視・不可視を指定するプロパティ。

`visible` (ボックスを可視にする。デフォルト。)

`hidden` (ボックスを不可視にして、透明化する。ただし、大きさ・位置は残る。)

`<==> display: none;` (ボックスの生成はされない。)

`hidden`にしても、大きさと位置は残る。透明化したのみ。